

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時	平成 30 年 6 月 1 日（金）	第 1 校時
対 象	3 年 4 組	4 0 人
指導者	教 諭	山 口 隼 人

1 内容及び題材名 A 家族・家庭と子どもの成長 「幼児の生活と遊び」

2 題材設定の理由

近年、少子高齢化の進行や社会の変化に伴って家族形態も多様化し、家庭生活は様々に変化してきている。特に、少子高齢化の進行はますます顕著になり、中学生が幼児とかかわる機会も極めて少なくなっており、幼児の発達や生活、関わり方について学ぶ機会が減少している。幼児との触れ合いや学ぶ機会の減少は、親の育児不安とも関係し、さらに少子化へとつながる悪循環が生じているとも考えられる。このような中で、中学生が家族・家庭と子どもの成長に関する学習課題に取り組み、異世代である幼児を理解し、思いやりや豊かな心を育むことは意義深いことである。また、人の一生の中で中学生としての位置づけを考えながら、人間の成長や発達と、幼児および中学生である自分と家族・家庭や社会との深い関わりを認識することは、大変重要なことである。

「A 家族・家庭と子どもの成長」では、幼児との触れ合いや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活について関心と理解を深め、家族や幼児に主体的に関わることができるようにし、これからの生活を展望して、課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

生徒は、半数が一人っ子、もしくは末っ子である。また、核家族の形態の家庭がほとんどであり、家族内に幼児がいる生徒もごくわずかである。そのため、幼児との交流の機会は極めて少ない状況にある。保育に関する学習に関心をもっている生徒も少なくはないが、苦手意識をもっている生徒も4割ほどいるのが現状である。

指導に当たっては、生徒がより主体的に学習に取り組めるように、題材の始めに「すっどカード」を用いて学習に見通しをもたせたい。題材の前半部分では幼児の身体の発育や心の発達等、幼児の生活についての基礎的・基本的な知識を習得させたい。それらを踏まえて、題材の後半部分では、幼稚園訪問を見通して、目的や対象に合った幼児の遊び道具づくりを行わせる。題材の前半や他教科等で習得した知識を活用し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、どのような遊び道具が適しているか、課題の解決に向けて構想を探究させることにより深い学びにつなげたい。終末は実際の幼稚園訪問を経て、幼児への関心を高めるとともに、そこでの学びを振り返らせ、実践を評価・改善し、幼児の生活をよりよくするために新たな課題に主体的に取り組む態度を育てられるよう指導したい。

以上のことから、実践的・体験的な学習活動を充実させながら、習得した知識や技能を活用し、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育成できるように本題材を設定した。

3 題材の指導目標

- (1) 幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組みせ、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとする態度を育てる。
- (2) 幼児の生活と家族について課題を見付けさせ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造できるようにさせる。
- (3) 幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けさせる。
- (4) 幼児の生活と家族について理解させ、基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。

4 題材の評価規準と指導計画

(1) 評価規準

ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術について の知識・理解
① 自分の成長の振り返りを通して、幼児の成長に関心をもっている。 ② 幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、遊び道具の製作に取り組もうとしている。 ③ 幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、幼児と触れ合う活動の計画に取り組もうとしている。 ④ 幼児と触れ合う活動などを通して、幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。	① 幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方について考え、工夫している。 ② 幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して遊び道具の製作の計画を自分なりに工夫している。 ③ 遊び道具の製作の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 ④ 幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして、よりよい遊び道具や遊び方について考え、工夫している。	① 幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。	① 幼児の身体の発育や運動の機能の特徴について理解している。 ② 幼児の言語、情緒、社会性の発達の特徴について理解している。 ③ 基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。 ④ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ⑤ 幼児の遊びを支える環境について理解している。 ⑥ 幼児の発達を支える地域の役割について理解している。

(2) 指導計画 (全 14 時間)

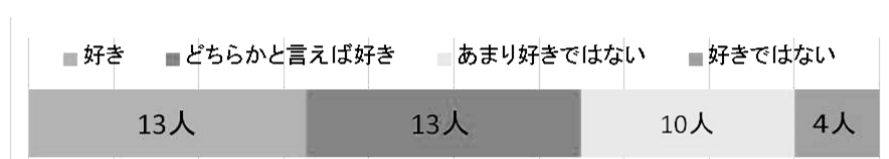
学習内容	時数	主な指導内容	評価規準
わたしの成長をたどる	1	自分の成長を振り返らせ、幼児期の心身の発達に関心をもたせる。	アー①
幼児の体の発達	1	幼児の体の発達の特徴を理解させる。	エー①
幼児の心の発達	1	幼児の心の発達の特徴を理解させる。	エー②
幼児の心身の発達と 家族の役割	1	幼児の生活の特徴を理解させ、家族の役割・関わり方について考えさせる。	エー③
幼児の遊びと発達	1	幼児の遊びの特徴に気づかせるとともに、幼児の遊びの意義について理解させる。	エー④
幼児の遊びを支える	1	幼児の遊び道具の役割や遊びを支える環境について考えさせる。	エー⑤
	1 (本時)	遊び道具の評価を通して、幼児の発達段階に応じた遊び道具や遊び方について工夫している。	イー①
幼児の遊びを支えるものの 構想 (生活の課題と実践)	1	身の周りにあるものを使って、幼児と一緒に遊べる遊び道具の製作について構想を練らせ、製作の計画を立てさせる。	イー②
幼児の遊びを支えるものの 製作 (生活の課題と実践)	夏季 休業	身の周りにあるものを使って、幼児と一緒に遊べる遊び道具を製作させる。	アー②
製作した遊び道具の報告 (生活の課題と実践)	1	製作した遊び道具について報告させて、互いの遊び道具を評価させる。	イー③
子どもの成長と地域	1	子どもの成長と地域との関わりについて理解させる。	エー⑥
触れ合い体験の前に	1	幼児と触れ合うための計画を立てさせる。	アー③
触れ合い体験をする (幼稚園訪問)	2	幼児との関わり方を工夫しながら、触れ合い体験をさせる。	アー④ ウー①
触れ合い体験をふり返る	1	触れ合い体験を振り返らせ、製作した遊び道具の評価・改善を図らせる。	イー④

5 生徒の実態（実施：平成 30 年 4 月 20 日 対象：3 年 4 組 40 人）

(1) あなたは保育の学習に興味がありますか。



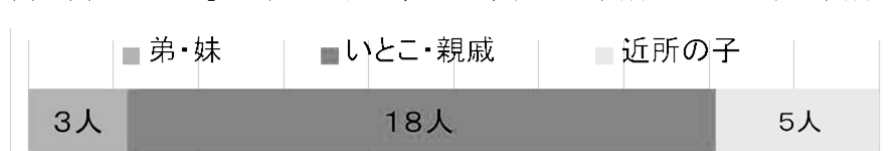
(2) あなたは子どもと触れ合うことが好きですか。



(3) 中学生になってから、幼児と触れ合った経験がありますか。



(4) (3)で「はい」と答えた人は、その幼児との関係はどのような関係ですか。



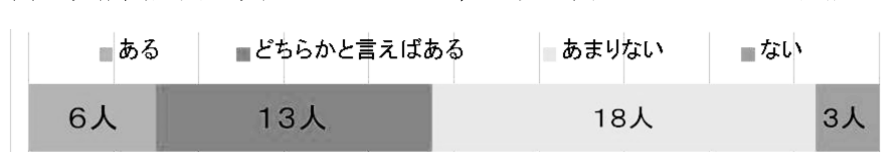
(5) (3)で「はい」と答えた人は、何回程度その経験がありますか。



(6) 幼児と遊ぶ上で大切なことが何か分かりますか。



(7) 幼稚園訪問で幼児と遊ぶときに、適切な関わり方ができる自信がありますか。



<考 察>

アンケートの結果から、保育の学習に興味がある生徒が 25 人、興味がない生徒が 15 人で若干興味のある生徒が多かった。同様に、子どもと触れ合うことが「好き」「どちらかと言えば好き」な生徒も「あまり好きではない」「好きではない」生徒と比べて、わずかに多いという結果が得られたが、保育の学習に興味がない生徒や子どもと触れ合うことに苦手意識を感じている生徒も少なくないことが分かる。幼児との交流経験については、中学生になってから交流の経験がある生徒が 26 人、ない生徒が 14 人であった。また、交流経験のある生徒の交流対象者を見てみると、「弟・妹」が 3 人、「いとこ・親戚」が 18 人と、比較的近い関係の幼児との交流が見られた。更に交流の回数についてみてみると、26 人中 23 人は 10 回未満の経験にとどまった。交流経験については、限られた関係の中での交流であり、10 回以上の交流がある生徒もわずかに 5 人であることから、多くの生徒が幼児とのコミュニケーションの経験や機会が限定的であることが分かる。幼稚園訪問で幼児と遊ぶときに、適切な関わり方ができる自信の「ない」「あまりない」生徒が多いことも、こういった背景が関係していることが予想できる。

そうした中で、幼稚園訪問を見据えた題材の学習を通して、幼児への関心を高めるとともに、適切に関わろうとする態度やそのための知識及び技能を習得させる必要性を感じる。

6 本時の実際（6／14）

(1) 主 題 幼児の遊びを支える

(2) 指導目標

遊び道具の評価を通して、幼児の心身の発達に応じたよりよい遊び道具や遊び方について考えさせ、幼児にとって望ましい遊び道具を工夫させる。

(3) 目標行動

幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方において必要な要素を考え、そのチェックポイントを述べることができるとともに、それらを踏まえた遊び道具の構想を考えることができる。

(4) 評 価

	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術につ いての知識・理解
評価 規 準		幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方について考え、工夫している。		
おおむね 生徒の姿 達成している		幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方において必要な要素を考え、そのチェックポイントを述べるができるとともに、それらを踏まえた遊び道具の構想を考えることができる。		

(5) 授業設計の視点

ア 社会とのつながりを意識させる教材・教具の工夫

授業では学習と日常生活や家庭生活とのつながりを意識させる工夫として、企業が実際に作っている遊び道具の紹介を補充指導の場面に取り入れた。実際に市販されているものの観察から、解決方法について推測させ、より質の高い課題の共有化を図れると考えた。生徒の中に問題意識をほりおこし、家庭と社会とのつながりや技術と社会・環境との関わりの中から課題を見いだすことができるようにした。

イ 最適な解決策を協働して追究させる場の設定

最適な解決策を追究させるための工夫として、「技術・家庭科相互練り上げ7か条」によって他者の考えにも耳を傾けさせ、班活動の活性化を図った。「自己追究」場面において、課題解決に向けた要素を明確にした後に、「相互練り上げ」場面において、グループでチェックポイントをつくる場面を設定した。生徒一人一人が活動に対して自分の意見をもって参加できるよう工夫した。また、問題解決へ向けて練り上げていく視点とプロセスを明確にするために、リーダー育成を充実させるとともに、学習の中でもリーダーを集める場面を設定した。さらに、深化指導として他教科の資料を提示し、より質の高い最適な解決策を追究できるようにした。このような指導の工夫を図ることで、能動性、独自性を発揮しながら、生徒同士が知識と技能を互いに活用しながら、協働的な活動を充実させることができるようにした。

(6) 本時の展開

過程	学習の流れ	時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	ほりおこし 課題の共有化	5	1 これまでの学習を振り返り、本時に学びたいことを考える。 2 考えたことを発表する。 4 学習課題を設定する。	1 すっどカードにより学びを振り返らせるとともに、本時の学習に関する疑問を想起させる。 (実践編2 p142) 2 これまでの学びや疑問を全体で共有させる。 3 幼稚園訪問における遊び道具の製作に向けて意欲を高めさせる。 5 生徒の発言から学習課題を導き出す。 6 学習課題を設定できない生徒には、補足説明を行う。	1 すっどカード 5 ワークシート すっどカード
			幼児にとって望ましい遊び道具を製作するにはどのようなポイントを考えればよいだろうか。		
展開	自己追究	10	7 遊び道具にとって大切な要素を考える。 8 考えた要素について発表し合い、全体で共有し合う。 ☐ 安全性が優れている。 ☐ 幼児の身体や心の発達段階に適している。 ☐ 幼児の成長やコミュニケーションを促す。	7 教師手づくりの遊び道具を観察させて、問題点に気付かせる中で、遊び道具にとって大切な要素に気付かせる。 8 全体で共有させることにより、よりよい遊び道具を製作するために必要な要素に気付かせる。 9 市販の遊び道具や幼児が実際に遊び道具で遊ぶ様子の映像を観察させて、大切な要素に気付かせる。	7 ワークシート 8 ワークシート 9 市販の遊び道具 PC・TV ワークシート
			(5)ーア 社会とのつながりを意識させる教材・教具の活用 (実践編1 p96) 10 考えた要素について、遊び道具のチェック(評価)ポイントを考える。		
展開	相互練り上げ	15	11 完成したチェックポイントを発表し、考えを学級全体で共有する。 13 教師の手作り遊び道具をよりよいものへと改善する。 14 ワークシートにまとめる。	10 これまでの学びや経験を踏まえて、根拠を明確に示させる。 (5)ーイ 最適解決策を協働して追究させる場の設定 11 完成したチェックポイントを共有させ、自分の班のチェックポイントと比較させる。 12 市販の遊び道具を紹介し、これまでの学びを含めて根拠をもってチェックポイントを示すように促す。 13 チェックポイントを参考にさせながら、要素を満たす遊び道具へと改善させる。 14 新たに気づいたこと等は、色を変えて加筆・修正させる。 (実践編2 p143) 15 遊び道具の製作に繋がる各教科での学びを紹介したり、リーダーを集合させ、外部知を入れたりして、よりよい改善策を追究させる。 (実践編1 p97)	11 ワークシート 12 市販の遊び道具 13 ワークシート 14 ワークシート 15 ワークシート 他教科の資料 相互練り上げ7か条 (実践編1 p97)
			(5)ーイ 最適解決策を協働して追究させる場の設定 16 本時のまとめを行い、幼児にとって望ましい遊び道具のポイントを確認する。 ・安全面 ・心身の発達段階 ・成長やコミュニケーションの促進 等のチェックポイントを踏まえて考えればよい。		
終末	自己評価	5	17 次時の予告を聞く。	16 本時の学習を振り返り、幼稚園訪問に向けた遊び道具の製作で配慮すべきことを確認する。 17 幼稚園訪問や遊び道具の製作に向けて、意欲を高めさせるとともに、よりよい改善策を求め続けるように伝える。	16 ワークシート すっどカード

